

令和 6 年 10 月 9 日

水稻の倒伏によりコンバイン収穫が困難な場合の対応について

- 水稻の収穫作業は終期を迎えていますが、地域によっては倒伏程度が大きく、コンバインによる収穫作業が困難となっています。
- コンバイン収穫をしないで、来年の春、細断しない稲を耕起した場合、ロータリーに絡み、耕起作業が困難となります。
- また、粃ごと稲を鋤き込んだほ場の水稻栽培は、減肥の検討、漏生粃対策、ワキ対策や中干しの強化等の水管理が必要となります。
- そのため、極力コンバインで収穫作業を行い、稲わらを細断し、粃をほ場外に持ち出してください。
他の方法としては、フレールモア（高性能草刈り機）を使用して稲を細断し、秋すき込みします。

1 排水対策の徹底

倒伏した稲を乾かし、ほ場の地耐力を高めることによって、コンバインの収穫作業を容易にし、フレールモアなどの大型の作業機械が入れるようにする。

そのためには、暗渠栓を開放し、水尻側の畦の一部を抜く、ほ場内に排水溝を多めに施工するなど、排水対策を徹底する。

※ ほ場内の排水溝施工には、乗用溝切り機(田植機装着型等)も有効である。

2 フレールモアによる未収穫稲の細断と腐熟促進

(1) 未収穫稲の細断（別紙 参考）

大型の作業機が入れる状態（土壌が乾き地耐力が確保でき、わだちができない状態）になったら、フレールモア（高性能草刈り機）で稲を細断する。

(2) 腐熟促進

ア 腐熟を進めるため、ロータリーまたはチゼルプラウを用いて秋すき込みを行う。

イ 分解促進剤として窒素成分を含んでいる資材を施用する場合は、次年度の栽培の窒素施用量に注意する。

ウ フレールモアによる細断は、コンバインによる細断に比べて稲わらの細断が不十分なため、ロータリーによる秋すき込みの作業速度は遅くする。

エ できるだけ作土深は 5～10 cm の浅打ちで行い、稲わらと土壌を十分に混和する。気温が高い時期に作業を開始する。

3 減肥の検討

粃ごと稲をすき込んだ場合は、粃の窒素量を勘案して、状況により基肥窒素量を減らす。

4 未収穫稲による漏生粃対策

(1) 漏生粃により発生した稲は、移植稲に比べ生育が遅く、品質低下を招くので可能か限り除去する。前年と異なる品種を作付けした場合は特に徹底する。

- (2) 枯殺効果の高い成分（プレチラクロール）を含んだ初期剤を適期に散布し、一発剤との体系処理を実施する。
- (3) 生育が遅れている稲や条間等に発生している稲は、可能な限り取り除く。

5 未収穫稲すき込みによる土壌還元対策

稲わら等の分解が進まず土壌還元が強く現れる可能性が高いので、ワキが著しい場合は中耕や夜干しを行う。また、中干しを徹底し、中干し後の飽水管理を励行する。

<参考>

平成 25 年、長岡市信濃川堤外地の水害ほ場におけるフレールモアによる
細断作業

